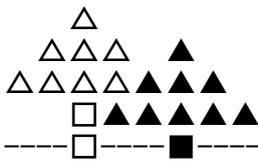


2019/10/31

林業試験場メールマガジン



『北の森の達人』

Vol. 58 第58号

読者の皆様へ

いつも林業試験場メールマガジン『北の森の達人』をお読みいただき、ありがとうございます。遅くなりましたが、本年度も刊行物発行やセミナー等の情報をお届けしますので、よろしくお願いたします。

■「光珠内季報」の192号並びに「グリーントピックス」第59号を発行しました。
http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri/about/kanko.htm
また、光珠内季報191号を6月に、北海道林業試験場研究報告56号を3月に発行しておりますので、こちらについても是非ご一読をお願いいたします。

■刊行物ダイジェスト・・・光珠内季報第192号（2019.10発行）

- 1 エゾシカをおいしく食べるための捕獲とは 1頁

農林業被害対策としてのエゾシカ捕獲がすすめられているが、良質な食肉を得るためには捕獲での配慮が必要となり、捕獲効率が低下することがある。被害軽減とジビエ活用のどちらを優先するのか、それぞれの地域での方針を明確にする必要がある。

- 2 カラマツ類幼齡人工林における植栽木の生残と成長
- 下刈り期間短縮の可能性を探る - 5頁

クリーンラーチ（カラマツ類の優良品種）の特徴である初期成長の速さは下刈り期間の短縮に繋がること期待される。クリーンラーチ、グイマツ雑種F1、カラマツと雑草木の成長比較より、クリーンラーチでは下刈り期間の短縮の可能性が示唆された。

- 3 カラマツの天然更新施業に向けた母樹林からの距離の影響 8頁

カラマツの天然更新施業においては、種子の凶作年でも母樹林の林縁で1㎡当たり10個以上の種子が落下するようであれば母樹林の林縁から秋の主たる風向の風下方向に6~46mの範囲で、種子の豊作年ならば母樹林の林縁から6~100mの範囲で、表土除去を行うことが望ましいと考えられた。

- 4 土壌硬度によってコンテナ苗植栽器具の作業効率はどう変わるか

コンテナ苗の植栽に適した器具を明らかにするため、土壌硬度が違う3カ所でプランティングチューブ、ディプル（円筒型）、スペード、島田グワ、タケノコグワ、エンジンオーガによる植栽試験を実施した。その結果、幅広い土壌硬度で島田グワとエンジンオーガの作業効率が高いことが明らかとなった。

・・・・・・・・・・グリーントピックス第59号（2019.9発行）

- 1 カラマツ播種コンテナ苗の育苗と運搬・植栽のマニュアルを作成しました
- 2 根株も粉碎できる下刈り機械ができました！
- 3 北海道ブランドになる「たらのめ」生産を目指す



林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

■発行・編集

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ

企画調整部普及グループ
電子メール forestry-mm@hro.or.jp

■記事の取り扱い

林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

